令和６年度　学校経営方針

八戸市立北稜中学校
校長　　梅村　光江

１　**校訓**　　英知　友愛　琢磨

２　**教育目標**　　創造性に富み　心豊かで　たくましく生きる生徒

３　**努力目標**　　（１）目標をもち　意欲的に学ぼう　　［知］
（２）互いに思いやり　協力し合おう　　［徳］
（３）いのちを大切にし　心身を鍛えよう　［体］

４　**学校目標**　　互いに尊重し磨き合いながら、主体的に考え行動する生徒の育成
＊「集団としての高まり」と「個の成長」を促す指導の継続
＊「与えられる学習」（受動的）から「自ら求める学習」（能動的）への転換

５　**重点施策**
（１）【授業づくり】基礎学力を土台に、思考力や創造性を育む授業を推進する。
＊基礎学力：単なる読み書き計算をこえ、言葉を通して世界を理解する深い力。
社会で楽しく暮らしていくために役立つ力。
（２）【絆づくり】望ましい人間関係の構築と自治的な集団活動を推進する。
（３）【居場所づくり】一人一人が活躍する場と認められる場の充実を図る。
（４）【地域に開かれた学校づくり】保護者や地域住民との連携・協働に努める。

６　**学校経営の方針**　　**〇基本理念　～教育は人づくり、未来づくり～**

国際化や情報化などを背景に、社会構造が急速に変化し続けている。人格の形成と社会的自立の実現のための土台づくりとなる中学校３年間の中で、今後の予測困難な時代をたくましく生きることができるよう、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する必要がある。

そのために、青森県教育委員会及び八戸市教育委員会の学校教育指導の方針と重点に基づき、安全・安心で「魅力ある学校づくり」の理念を踏まえ、地域の特色、生徒の実態、保護者や地域の願いを的確に把握し、「授業づくり」「絆づくり」「居場所づくり」の視点に立って、笑顔あふれる教育活動を推進する。

キーワード　〇魅力ある学校…楽しみのある学校、自己の成長を実感できる学校
〇地域と共に歩む学校…地域の学校
〇夢と志…人生設計

７　**教師の基本姿勢**
（１）いのち最優先の教育
物理的にも心理的にも、安全で安心であることを担保する「いのち」最優先の教育を行う。
（２）信頼関係の構築
教育に携わる者としての自覚と責任を強くもち、日頃から誠実で丁寧な言動を心がけ、生徒、保護者、地域住民との信頼関係の構築に努める。
（３）地域に根差した教育活動の推進
地域の特色を生かし、地域とのつながりの中で学ぶことを通して、自分の力で人生や社会をよりよくできる実感を生徒に味わわせる教育活動を展開する。
（４）同僚性の発揮と協働の姿勢
一人一人が「北稜中の教育」を支えるチーム北稜の一員であるという自覚をもって自らの理念やビジョンをもち、専門性や持ち味を生かして協働し学び合ながら、教育活動を推進する。
（５）学び続ける教師集団
「生徒ファースト」の視点で教師も変化に適応できるよう、研修の機会を捉えて指導力の向上に努める。

８　令和6年度の実践

（１）基礎学力を確実に身に付けさせ、思考力や創造性を育む授業づくりの推進

①問題解決的な学習の推進

ア　学習到達目標（何ができるようになればよいか）を明確にして生徒の学習意欲を喚起し、自律的な学習態度を育む指導を行う。

イ　生徒が自ら問いを立てられるよう課題提示を工夫し、問いの解決に向けた協働的な学習の実現につながる授業づくりを研究する。

②特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり

ア　活動の目的や手順及び考える視点や道筋を視覚的に示し、生徒が見通しをもって学習できるように指示を工夫する。

イ　教材や教具、１人１台端末の活用等により、学習の個別最適化を図る。

③授業改善のための研修の充実

ア　同僚性を生かし、学年や教科の枠を越えて学び合う機会を設けるなど、校内研修体制の整備と充実を図る。

イ　積極的に校外研修を活用して授業改善につなげるとともに、伝達講習等により全教師の授業力の向上を図る。

（２）望ましい人間関係の構築と自治的な集団活動の推進

①話合い活動の充実による安心できる学級づくり、互いを高め合える学級づくり

ア　生徒が互いの能力や個性の違いを認め、尊重し合い、安心して学習や諸活動に取り組める学級づくりを目指す。

イ　よりよい学級生活を目指して話し合い、合意形成したことを実践することを通して切磋琢磨し合える学級づくりを目指す。

②教育相談体制の確立

ア　生徒と教師も互いに尊重し合える人間関係を築き、生徒の不安や悩みにいち早く気付いて寄り添い、教師の協働による相談体制を整えて対応する。

イ　必要に応じて、スクールカウンセラーや関係機関等を活用する。

③自治的な集団活動の推進

ア　学級のみならず、学年集団や異年齢集団などによる集団活動を通して、同調圧力のないより高い社会性を身に付けさせる。

イ　集団生活の向上に向けて合意形成したことを、一人一人が責任をもって実践する態度を養う。

（３）一人一人が活躍する場と認められる場の充実

①自己有用感を育む取組の工夫

一人一人が役割に責任をもち取り組むことの大切さを実感できるように活動を工夫し、誰かの役に立っている、貢献している、必要とされていることを味わわせる。

②自己効力感を高める取組の工夫

成功体験を積み、「やればできる」という自信をもたせることを通して、直面する壁や困難、難問に立ち向かい、粘り強く取り組もうとする態度を育成する。

③自己肯定感を高める取組の工夫

自己有用感、自己効力感に裏付けられた確かな自己肯定感を高められるように活動を工夫し、適切に指導する。

（４）保護者や地域住民との連携・協働の推進

①保護者との連携・協働の推進

めざす生徒像を保護者と共有し、率直に意見交換しながら信頼関係を築き、共通の願いのもとに連携して、教育活動を推進する。

②地域住民との連携・協働の推進

地域に受け継がれる伝統への誇りと地域への愛着をもち続けられるよう、地域住民と連携・協働し、地域から学び、地域のために活動する教育活動を推進する。